



# はるかぜ図書館だより

つくば国際大学東風高等学校 図書館 2019年2月発行 No.10

みなさん、こんにちは！2月下旬になり、寒さも以前より落ち着いてきましたね。

三年生は卒業まで残すところ、あと数日となりました。自由登校期間、どのように過ごしていますか？受験勉強を頑張っている人や、新生活に向けての準備を進めている人など、過ごし方は様々だと思います。残り少ない高校生活、充実した時間を過ごせるよう、陰ながら応援しています。

一・二年生は進級するにあたって、目標などを設定し、今のうちからやれることはコツコツと進めていきましょう！そうすることで4月から気持ちに少し余裕ができるはず…♪

今年度も残り一か月…体調には十分に気をつけて、みんなで頑張っていきましょうね！



## 図書館からのお願い

図書館内で保管している本が無断で持出されることが度々あります。

今年に入ってから既に、教室に放置されていたという、貸出をした記録のない本が数冊戻ってきました。

本だけに限ったことではありませんが、**図書館内にある資料は、たとえ校舎の中であろうと、自由に図書館の外に持出していいものではありません。**一冊一冊、データ登録をして、この先もずっと図書館で大切に管理されていくものです。もし誰かが無断で持ち出した本を別の誰かが借りたいとなったとき、登録されたデータを基に本の点検作業を行うとき、新しい本を購入するとき、図書館に置いてあるはずの本がないと、非常に困ってしまいます。

**本を図書館外に持ち出す際は、必ずカウンターで手続きを済ませてください。**担当者が不在のときは、昼休みか放課後などの、担当者が在席している時間に手続きを行ってください。

図書館は公共の場所ということをお忘れず、ルールとマナーを守って、有効に活用してください。全員が気持ちよく使える環境づくりへのご協力をよろしくお願いいたします。

## 今月のおすすめ

ファーストラヴ 著：島本理生

夏の日の夕方、多摩川沿いを血まみれで歩いていた女子大生・聖山環菜が逮捕された。彼女は父親の勤務先である美術学校に立ち寄り、包丁で父親を刺殺した。臨床心理士の真壁由紀は、この事件を題材としたノンフィクションの執筆を依頼され、環菜やその周辺の人々と面会を重ねることになる。そこから浮かび上がってくる、環菜の過去とは？なぜ彼女は父親を殺さなければならなかったのか？「家族」という名の迷宮を描く長編小説。第159回直木賞受賞作。

自分でも気づかないうちに心に負ってしまった傷はもはや傷ではなく、生まれつきそこにあった自分の一部として当たり前を受け入れてしまっているのかもしれない。他者と関わっていく中で、自分にとっては当たり前のものでそうではないと気づいたとき、他の人にその傷はないのだと知ったそのときに初めて、傷が痛みだすのでしょうか。テーマも内容も重い話ですが、読後感は爽やかな一冊です。

ポイズンドーター・ホーリーマザー 著：湊かなえ

人の心の裏の裏まで描き出す極上のイヤミス6編。母と娘。姉と妹。男と女。ままたらない関係、鮮やかな反転、そしてまさかの結末…。あなたのまわりにもきつといる、愛しい愚か者たちが織りなすミステリー。さまざまに感情を揺さぶられる圧巻の傑作集。

人の悪口や根拠のない噂話、自分を守り他人を陥れるための作り話。そんなものの上に築かれる人間関係など必要ないかと強く思いました。しかし、そうは思ってもそれを断ち切るだけの精神力を持ち続けることは容易ではありません。家族相手となったら尚更でしょう。ずしりと重く、読み応えのある一冊でした。

フーガはユーガ 著：伊坂幸太郎

常盤優我は仙台市のファミレスで一人の男に語り出す。双子の弟・風我のこと、決して幸せでなかった子供時代のこと、そして、彼ら兄弟だけの特別な『アレ』のこと。僕たちは双子で、僕たちは不運で、だけど僕たちは、手強い。

主人公の双子を取り巻く環境は残酷なことばかりですが、語り口が軽くて飄々としているので、そこまで深刻になり過ぎずにさらりと読めてしまいます。勧善懲悪ならではの爽快感だけでなく、切なさも残る不思議な雰囲気のお話でした。SFや一癖あるヒーローが好きな人には特におすすめしたいです。

## 芥川賞と直木賞

第160回 芥川賞と直木賞の発表がありました。

今回は芥川賞に上田岳弘さんの『ニムロッド』、

町屋良平さんの『1R1分34秒』の2作品が、

直木賞には真藤順丈さんの『宝島』が選ばれました。

どんな本を読めばいいのか分からないという人は、このように大きな賞を取った本から読み始めてみるのもおすすめ。そうすると段々、自分の好きな本のジャンルや傾向が見えてきて、読みたい本が見つけれられるはずです。

